

入門向け真空管オーディオキット

エレクトットのイーケイジャパンを訪ねて

(株)イーケイジャパン 福岡県太宰府市／レポート：末永昭二

手頃な価格かつパフォーマンスの高いアンプキットとして、本誌でもおなじみのエレクトットシリーズ。今回、同シリーズを開発するイーケイジャパンを訪れる機会を得たので同社の活動を紹介しよう。



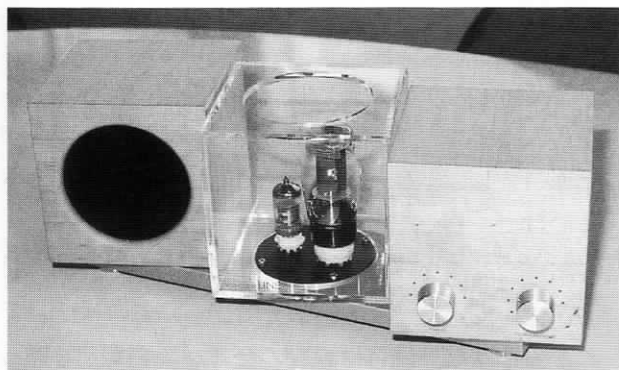
奈良時代から平安時代にかけて九州の政治的中心だった太宰府政庁の旧跡・都府楼跡に近いイーケイジャパン本社。ここで子供向けの工作教室なども開催されている

作る楽しみと並べる楽しみ

まったくの初心者が、最初に真空管式オーディオ機器を自作するなら、イーケイジャパンの真空管オーディオキットを選べば、まず間違いないだろう。

入手が容易で低価格、さらに再現性が高いこともさることながら、統一感のあるデザインで「集めて並べる楽しみ」も演出していることも見逃せない。

その作りやすさは、スイッチやボリュームまわりに至るまでの完全プリント基板化と、懇切な組み立てマニュアルによる。慣れた人にとっては「何もここまで」と思われる同社のプリント基板だが、端子へのハンダ付けは、初心者にとってかなりの難関だ。



地元の放送局(RKB毎日放送)との共同企画で生まれた真空管ラジオ「V-a-cube LINE」(非売品)。アクリルと木材によるデザインがユニーク。RF部はICラジオで右の木箱に入っており、低周波部のみ真空管という構成



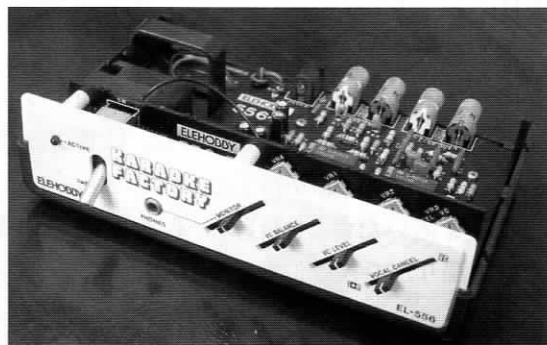
同社キットが一堂に並ぶ本社ショールームにて、右から井口秀実社長、開発担当の藤田芳継氏、内田勝利氏、営業担当の篠倉敬志氏

部品の取り付け間違いは目視でチェックできるが、ハンダ付けの不良は見逃しやすい。できるだけトラブルの元を回避して再現性を上げるというのが同社の設計方針だ。

このあたりは、同社の前身の嘉穂無線時代から培われたキット作りの哲学なのだろう。

電子工作入門と真空管オーディオ

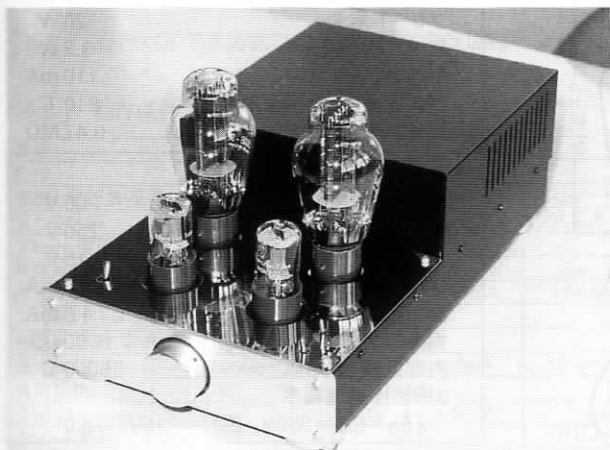
嘉穂無線の創業は1949(昭和24)年。当初は福岡県飯塚市で家電製品とパーツを販売していたが、1973(昭和48)年、福岡市への移転を機に初心者向けキットを発売する。1976(昭和51)年、ブルーのプラスチックケース(ドライバー1本でケース加工が可能)に入った「BC(ブルーケース)シリーズ」が発売される。「エレクトット」の商標は、ここから使用される。



往年の大ヒット商品「カラオケ工場」。ステレオ音源を逆相でモノラル合成してセンターに定位する音を消すという原理のカラオケ作成機。合成されるのはフィルターで抽出されたヴォーカルの帯域のみなので、ベースやバスドラムなどまで消えてしまうことはない



歴代のCDプレーヤーキット。右から試作機(内部のメカニズムはソニーのプレーヤーを使用)、初代TU-876CD(2001年)、TU-878CD(2003年)、最新モデルTU-881CD(2005年)



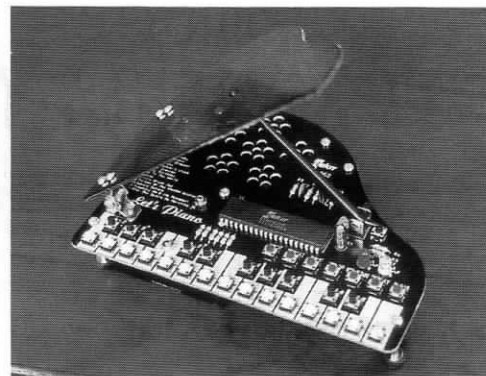
2005年12月に500台限定で発売された300BシングルアンプTU-873LE(83,790円)。初段は6SN7GTで出力は8W+8W

その後、メカトロニクスやデジタル機器、マイコン関連の製品が発売されるが、原点回帰として、1988(昭和63)年、真空管アンプキットを発売。それ以来、モデルチェンジと新製品投入を続けながら、現在に至っている。

現在、真空管パワーアンプは6BM8シングルのTU-870(20,790円)、300BシングルのTU-873LE(83,790円)、6L6GCシングルTU-879S(44,940円)、6BQ5シングルTU-880(31,290円)の4機種で、ほかにハイブリッドステレオプリアンプTU-875(税込31,290円)がある。TU-873LEは最新の500台限定モデルで、過去の300Bシングルアンプをベースに、オリエントコア使用の出力トランスをはじめ、いくつかの改良を施している。

人気のCDプレーヤーキット

現在、CDプレーヤーのキットは非常に少ない。同社では2001年から5963(12AU7)をバッファアンプに用いた真空管CDプレーヤーキットを発売している。CDプレーヤーを自作したいという場合には、一部の高額商品を除いて、もっとも手に取りやすい製品だったが、台数限定だったので入手は難しかった。



「Let's ピアノ」(3,150円)。鍵盤状に並べた押しボタンスイッチで演奏するだけでなく、各種のメモリー機能ももつ。この製品をきっかけに電子工作を始める女性もいるというヒット商品



「音木箱(おとしばこ)」(3,675円)。ストリートオルガンやプレイヤーピアノのように、紙のロールを使って音楽を演奏する新製品。ロールは手書きでも作れるが、パソコンで作成するための専用ソフトも用意されている。筐体が木製で、木工の楽しさも味わえる

昨年11月には新モデルTU-881CD(34,440円)が発売されたが、限定1000台は予約だけで完売。これから入手するには、販売店での流通在庫に行き当たるしかないだろう。

このシリーズは、発売ごとに大きくモデルチェンジしている。回路自体はあまり変わっていないが、外見がかなり違う。筆者は前モデルTU-878CDを使用しており、フタの開閉時のショックが気になっていたが、TU-881CDでは開閉部にダンパーが採用された。ユーザーからのフィードバックが活かされているのだろう。

CDプレーヤーに真空管は必ずしも必要ではない。しかし、あえて音の入口から出口までを統一感のある真空管オーディオシリーズでまとめることも楽しみのひとつ。並べて眺めることから始めてもいい。再現性が高く廉価な入門向けキットは、自作オーディオの出発点として、オーディオ界の裾野を広げつづけるだろう。

●イーケイジャパン URL <http://www.elekit.co.jp/>